
教育講演

社会医学系専門医制度の現状と展望

2018年11月23日(金) 14:20 ~ 15:50 |会場(福岡サンパレスH平安(中継末広))

[2-I-2-4] 医療情報学専門医制度：海外の動向

○澤 智博（企画調整委員会）

米国において医療情報学専門医制度は2013年に確立され既に5回の専門医試験の実施により1,600名を超える専門医が認定されている。その文脈の中で医療情報学は、情報システムなどのテクノロジーについて分析、デザイン、実装、評価することで、個に対する医療あるいは集団のヘルスケアのアウトカムやケアプロセスを改善し、患者との関係を強化することが期待されている。この制度においてはコアコンテンツが示されており、基本領域、臨床診断とケアプロセスの改善、医療情報システム、改革管理とリーダーシップの4点から構成されている。本セッションでは、海外の医療情報学に関する専門医制度の動向について紹介し、日本における医療情報学を専門とする医師の将来像について議論する。

社会医学系専門医制度専門医・指導医講習会

今中雄一^{*1}、中川肇^{*2}、大原 信^{*3}、澤智博^{*4}

*1 京都大学、*2 富山大学、*3 筑波大学、*4 帝京大学

Continuing Education for Board Certified Physicians in Public Health and Social Medicine

Yuichi Imanaka^{*1}, Hajime Nakgawa^{*2}, Katsuyuki Kondo^{*3}, Tomohiro Sawa^{*4}

*1 Kyoto University, *2 University of Toyama,

*3 Akita University, *4 Teikyo University

Japan Board of Public Health and Social Medicine is consisting of 8 societies and 2 entities. It was established in December 2016. Since the establishment, more than 3,000 physicians have been certified. The first board examination was provided in August 2018. Training programs for physician has been accredited in nation-wide. This session is to provide board certified physicians with continuing education contents.

Keywords: Japan Board of Public Health and Social Medicine, Continuing education, Board certification

1. 講習会要旨

社会医学系専門医協会は、2018年8月現在、8学会2団体で構成されており、3,000名を超える専門医・指導医が認定されている。また、本年8月には第1回目の専門医認定試験が実施された。認定プログラムは全都道府県をカバーしている。

本講習は、社会医学系専門医協会より公表されている更新単位指定リストに掲載されるK単位を付与する講習である。

2. 社会医学系専門医制度の現状と展望

今中雄一

社会医学は、人々の疾病を予防し、健康を維持・増進するために、これまで大きな役割を果たしてきた。具体的には、医学をベースとして科学的なエビデンスを創出して社会に適用し、地域・職域や国レベルの集団とシステムに働きかけ、健康な生活・行動様式の推進、安全な環境の保持、医療提供システム等の構築に貢献し、人々の健康増進、疾病の予防や回復、平均寿命や健康寿命の延伸、安心と安全の保持の達成に必須の大きな役割を果たしてきた。

社会医学系の専門医制度の基本は、一つ目に、専門医の質を保証し、その質をさらに向上させる制度であること、次に、国民に信頼され、医療および公衆衛生の向上に貢献する制度であること、更に、人々の健康と命を預かるプロフェッショナルである医師が、使命感、倫理性、誇りと公共への責任をもって、自律的に運営する制度であること、にある。

本セッションでは、社会医学系専門医制度について、専門医研修プログラム、専門医・指導医の認定状況や更新ルールなどの現状を説明し、専門医制度の展望について議論する。

3. 社会医学系医療情報学専門医と上級医療情報技師との立ち位置の違い

中川 肇

日本医療情報学会関連の資格には、社会医学系専門医と医療情報技師がある。平成29年に技師部会では、「上級医療情報技師の一般目標及び行動目標群(GIO.SBOs) Ver.1.1」をWeb上にアップしている。7つのGIOが提示されているが、施設管理者層からの要求を引き出して(GIO1)、チーム内、チーム間のマネジメントができる能力(GIO2)などからは現場中心のリーダ的人材であることが分かる。

一方、専門医にも、彼らに求められている能力と重複して求められる能力もあると考えられる。しかしながら、専門医はアカデミアであり、日常の業務も当然のこと、研究・教育活動が求められる。すなわち、専門医は上級医療情報技師と手を携えながら、各病院において病院長を補佐しつつも、あるいは自ら病院長として、HISの発展のための研究、教育に力点を置くべきと考えられる。他の臨床系専門医制度が二階層構造をとると同様に公衆衛生、病院管理、集団災害医学等の一階層目を習得した上で二階層目の医療情報学のアカデミアとして発展することが要求される。熱心な議論を行い立ち位置を深化させたい。

4. 社会医学系医療情報学専門医に求められるコンピテンシー

大原 信

日本医療情報学会の教育委員会は、医療情報学を担うアカデミア人材育成を目的として、この二年間に渡り医療情報学講座の創設に取り組んできた。優れた人材育成ためには、outcome-based education <OBE>を骨組みとし、受講者が修了時まで修得して身に付けておくべき能力を明確にして、客観的に評価できるようすべきであろう。その中で検討した一つの柱が、医療情報学を志す者に求められるコンピテンシーである。今回の講演では、教育委員会の活動をご紹介するとともに、このコンピテンシーについて、会場の皆さんと議論し、より深化させていきたい。

5. 医療情報学専門医制度：海外の動向

澤 智博

米国において医療情報学専門医制度は2013年に確立され既に5回の専門医試験の実施により1,600名を超える専門医が認定されている。その文脈の中で医療情報学は、情報システムなどのテクノロジーについて分析、デザイン、実装、評価することで、個に対する医療あるいは集団のヘルスケアのアウトカムやケアプロセスを改善し、患者との関係を強化することが期待されている。

この制度においてはコアコンテンツが示されており、基本領域、臨床診断とケアプロセスの改善、医療情報システム、改革管理とリーダーシップの4点から構成されている。

本セッションでは、海外の医療情報学に関する専門医制度の動向について紹介し、日本における医療情報学を専門とする医師の将来像について議論する。